

3 重点目標

「食」を巡る現状と課題を踏まえ、食育推進における重点目標とその取組方向を次のとおり定めるとともに、その成果を確認するために指標を定め、県民運動として展開していきます。

重点目標 1 朝食を欠食する人を減らそう。

スローガン 朝ごはん しっかり食べて 元気な一日

取組方向

朝食をしっかり食べることは、生活のリズムの向上を図るとともに、睡眠中に欠乏する血液中のブドウ糖を補い、気力・体力の低下を防ぎ、健康的な一日を過ごす基本となるものであるという知識を習得させ、朝食を欠食する人を減らしていきます。

家庭・保護者に対する学校・保育所等における指導や、健康診査等による情報提供、地域保健と職域保健の連携による取組や「早寝 早起き 朝ごはん」国民運動等の取組と連携する中で、学校・保育所等、地域・職域関係者及び行政が有機的に連携し、家庭、地域における取組を展開していきます。

数値目標

指 標	基準値（平成16年度）	目標値（平成22年度）
朝食の欠食率 （小学校高学年）	2.1%	0%
朝食の欠食率 （男性20歳代）	25.0%	15%以下
朝食の欠食率 （男性30歳代）	25.0%	15%以下

重点目標２ バランスのとれた食事を実践しよう。

スローガン 品数多く 塩分控え 腹八分

取組方向

栄養の偏り、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身志向、過剰な塩分摂取や野菜摂取量の不足等の課題の解決に向け、健康診査等を通じた個人の食生活改善指導のみならず、地域全体でのバランスのとれた食事の実践を推進していきます。

食生活の改善指導・支援や健康づくり事業等、各地域における課題に沿った取組を進めるとともに、日本の気候風土に適した米を中心とした多様な副食からなる日本型食生活の実践を促進していきます。

食生活指針や「食事バランスガイド」を活用し、「何を」「どれくらい」食べたら良いか、「食事」の基本が身に付くように普及・啓発を図っていきます。

数値目標

指 標	基準値（平成16年度）	目標値（平成22年度）
脂肪エネルギー比率 (20～40歳代)	27.4%	25%以下
一日の食塩摂取量 (20歳以上)	13.2 g	10 g 未満
一日の野菜摂取量 (20歳以上)	304.5 g	350 g 以上

重点目標3 「食」に対する感謝の気持ちを醸成しよう。

スローガン 感謝をこめて いただきます ごちそうさま

取組方向

農林畜水産業の生産現場を知らない人が増え、「食」の大切さ、「生命」の大切さ、安全な農林畜水産物生産のための生産者の努力が忘れられがちとなっているため、農林畜水産業の生産現場を実際に体験・経験する機会や生産者との交流の機会を促進するための取組を推進していくとともに、市町村における教育ファームの推進を支援していきます。

家庭で料理をする機会の減少により、「食」は健康の源であるという意識が薄れているため、親子料理教室等の開催により、家族のために健康に良い食事を親子で作るなど家庭料理の推進を図っていきます。

また、学校・保育所等においても、学校給食等への地元農林畜水産物の使用を促進するとともに、地域の生産者との交流、農業体験学習等の時間を通して、「食」に対する感謝の気持ちを醸成していきます。

数値目標

指 標	基準値	目標値（平成22年度）
学校給食における県産食材の使用割合(重量ベース)	平成16年度 31.7%	35%以上
教育ファームの取組がなされている市町村の割合	—	60%以上

重点目標4 農林畜水産物の地産地消県民運動を推進しよう。

スローガン うまいもんだよ 新鮮・安心 地元の食材

取組方向

豊かな食生活と「食」を通じて顔の見える人間関係を実現するため、地産地消サポーター等への積極的な参加、直売所・小売店における地元農林畜水産物等の取扱量の増加や学校給食・宿泊施設等での利用の促進に取り組み、地元で収穫された新鮮で安全な農林畜水産物を安心して食べる地産地消を推進し、県民運動として更なる定着を図ります。

また、地域で育んできた伝統的な食文化を次の世代に伝えていくため、学校給食における子どもへの郷土料理の提供や地域における親子料理教室等の開催、地元農林畜水産物を活用した特産加工品生産の取組等を推進していきます。

さらには、本県の豊かな自然と観光資源に恵まれた条件を生かし、多くの観光客に特産物を提供する取組も推進していきます。

数値目標

指 標	基準値	目標値（平成22年度）
地産地消サポーター数	平成17年度 1,022人	1,200人以上
直売所の登録販売者数	平成17年度 延べ 9,412人	延べ 10,500人以上
学校給食における県産食材の使用割合（重量ベース）（再掲）	平成16年度 31.7%	35%以上

重点目標5 食育への関心を高め、県民運動として推進しよう。

スローガン 食育で 心も健康 体も健康

取組方向

「食育」を県民運動として推進し、県民一人ひとりに実践してもらうため、食育や食の安全等についての意見交換会やイベントの開催、ホームページや情報誌等による情報提供によって、県民への普及・啓発を行っていきます。

食生活の改善活動を地域で行うボランティアの育成に努めるとともに、市町村における食育推進のための計画づくりを支援していきます。

市町村、各種団体等と連携して食育に取り組むことにより、県民運動としての食育を効果的に推進していきます。

数値目標

指 標	基準値	目標値（平成22年度）
食育の推進に関わるボランティアの数	平成17年度 4,694人	5,170人
食育推進計画を作成・実施している市町村の割合	—	100%